あなたが思う「よりよい地域」を一緒に

東北学院大学 地域総合学部

政策デザイン学科

Guide 2026

公・共・私の連携で地域を学び、課題 を解決

政策デザイン学科では、公（公共行政）－共（市民社会）－私（経済産業）の連携という考え方のもと、
だれもが生きやすい持続可能な社会をめざし、
新たな価値を生み出し社会を変えていく人＝チェンジメーカー（政策起業家）を育成します。

Civil Society

市民社会

地域で暮らす人々の多様性と、現実の社会問題について学びます。災害が多発する日本が避けて通れない、防災・減災や復旧・復興についても学びます。

Public Administration

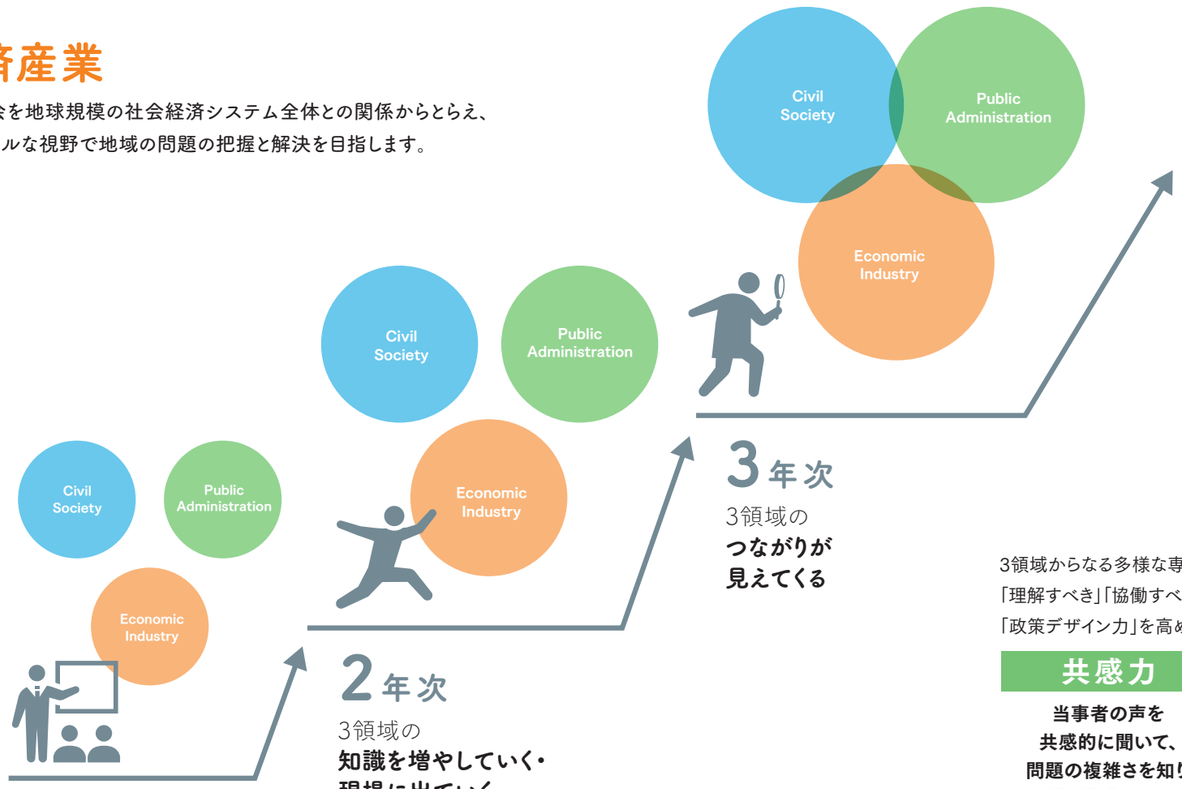
公共行政

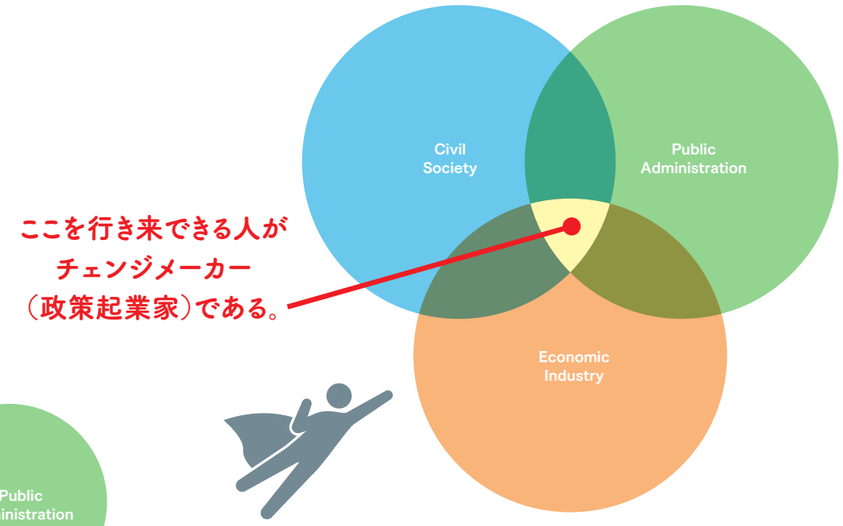
社会保障などの政策や、政策を支える財政などについて学び、行政（国・地方政府）の視角から、共に生きるための政策を考えます。

Economic Industry

経済産業

地域社会を地球規模の社会経済システム全体との関係からとらえ、グローバルな視野で地域の問題の把握と解決を目指します。





政策デザインのための5つのスキル

Vスキルズ

3領域からなる多様な専門科目と少人数の演習科目、社会と密接に関わる実習科目を通じて、5つの力を磨きます。政策デザイン学科の学びの特長は、「理解すべき」「協働すべき」「働きかけるべき」相手がいること。ただ「知っている」だけで終わるのではなく、「共に何かをする」ための知識と行動力、すなわち「政策デザイン力」を高めていってください。

共感力	協働力	思考力	発信力	創造力
当事者の声を共感的に聞いて、問題の複雑さを知り深く理解する力	公・共・私それぞれの立場の人々を巻き込み、ともに解決策を実現する力	公・共・私それぞれの視点から課題の解決策を多角的かつ論理的に思考する力	新たな解決策を多くの人々に届け、理解・賛同してもらえる力	既存のルールにとらわれず試行錯誤して新たな解決策を提示できる力

卒業後の進路

本学科の学びで身につく能力は、　公・共・私のそれぞれの現場で、よりよい地域をつくるために役立てることができます。

- ●民間企業で働き、地域社会の発展に貢献する。仕事をとおして国内（外）の社会課題の調査や解決に取り組む。
- ●政府機関や非政府機関（NGO）、NPOなどで活躍する。
- ●公務員として、公共政策の遂行やふるさとの発展、復興に貢献する。
- ●起業して地方経済の活性化に取り組む。
- ●学校教員になり、地域の子どもたちの教育に携わる（中学校社会・高校公民の教員免許が取得可能）。
- ●自治体、企業、NPO、市民活動など。

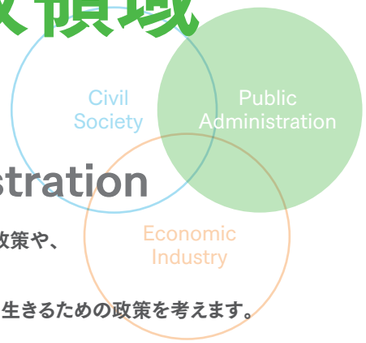
取得可能な資格

教育職員免許状

- 中学校1種：社会
- 高等学校1種：公民

社会福祉主事任用資格

公共行政領域
の学び

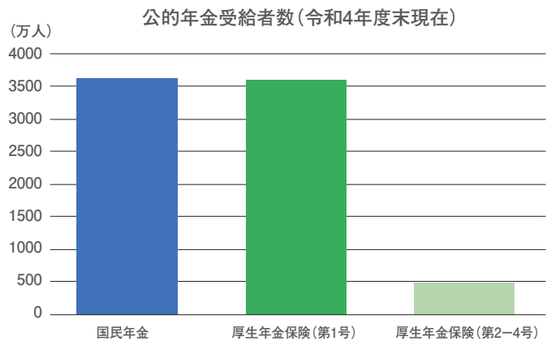


Public Administration

公共行政領域では、社会保障などの政策や、政策を支える財政などについて学び、行政（国・地方行政）の視角から、共に生きるための政策を考えます。

他の2領域とのかかわり

地域にどのような人たちがいて、どのような生活をしていて、どのような問題があり、どのような取り組みをしているのか。市民社会領域での学びは、よりよい公共行政の実現のために重要だと考えています。また、公共行政には財源が必要であり、経済産業領域での学びが財源についての理解を深めてくれると思います。さらに、地域の経済や産業を盛り上げるために公共行政に何ができるかということも、考えてほしいと思います。



資料）厚生労働省『令和4年度厚生年金保険・国民年金事業の概況』をもとに作成

熊沢 由美 教授
社会保障論、社会保険論、格差社会論

研究紹介

日本の社会保障、特に、制度がどのように整備され、実施されてきたのかという制度史に関心を持っています。制度史を見ることは、制度のそれまでを振り返ることが興味深いというだけではなく、制度の現況や直面している課題をより明らかにできると考えています。例えば、日本の年金は複雑で難しいと言われることが多いです。年金が創設された時のこと、改定された時のことを見ていくと、いまの年金がなぜ複雑で難しいと言われる制度体系になったのかが見えてきます。そうなると、解決のためにどうしたらいいのか、考えやすくなるのではないでしょうか。制度史には、これから制度がどうあるべきかを考えるためのヒントがあると思うのです。

代表的な講義

政治学入門

現代の政治を理解する上で不可欠な理論や基礎概念を学習することにより、現代社会における課題について理解し、自ら考察するための基礎力を身に付けます。

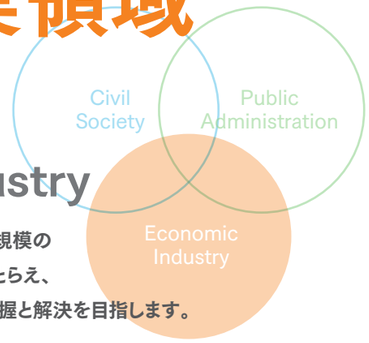
地方財政論

自治体は、貧困対策、地域活性化など、様々な施策を実施しています。自治体は一体何にお金を使い、どのように財源を工面しているのでしょうか。自治体財政の基礎を学びます。

環境政策論

環境政策の講義では、環境や公害問題の種類や特徴を学ぶとともに、理論的なフレームワークを基盤とした、行政の対策や企業活動の取り組みについて学習します。

経済産業領域
の学び



Economic Industry

経済産業領域では、地域社会を地球規模の社会経済システム全体との関係からとらえ、グローバルな視野で地域の問題の把握と解決を目指します。

他の2領域とのかかわり

金融包摂の実現には、私たちの金融に関する知識や判断力（金融リテラシー）の向上が不可欠であり、そのためには金融経済教育の普及が重要です。『教育』と聞くと行政が担うものと考えがちですが、実際には多くの金融機関やNPO法人も重要な役割を果たしています。特に、地方に住む人々の金融リテラシーが不足している傾向があるため、課題解決には行政（公）、NPO法人（共）、金融機関（私）の三者の密接な連携が重要です。

金融リテラシークイズ

問い：インフレ率が2%で、普通預金口座であなたが受け取る利息が１%なら、1年後にこの口座のお金を使ってどれくらいの物を購入することができると思いますか。（1つだけ）

※答えはページ右下をチェック！

1. 今日以上に物が買える
2. 今日と全く同じだけ物が買える
3. 今日以下しか物が買えない
4. わからない

（出典）金融広報中央委員会『金融リテラシー調査（2022年）』より

伊鹿倉 正司 教授
金融入門、地域金融論、地域経済データ分析

研究紹介

金融取引は、他人同士のお金の貸し借りや現在と将来のお金の貸し借りといった特徴を有しますが、いずれにおいても貸したお金が返済されないといった可能性があります。このような可能性があることで、自分の状況を改善するために金融取引を利用したい人々が金融取引を利用できないといった問題が生じます。

近年、十分な金融取引を利用できない人（高齢者や外国籍の方々など）が地域社会で増加しています。そのような人々が存在しない状況を「金融包摂（きんゆうほうせつ）」と呼びますが、私はこれまで20年以上にわたり、地域社会で金融包摂を実現するための仕組みを研究しています。

代表的な講義

社会と開発

この授業は1年生開講科目「SDGs概論」の発展版です。「持続可能な開発」という言葉だけではよくわからない内実を、この授業では世界各地の事例から具体的に考えていきます。

労働経済論

労働経済論では、労働についての基礎的な理論（なぜ圧倒的に多くの人は「雇用」されて働くのか）や労働条件（賃金など）の決定の仕組みと現状、雇用の日本的特徴などを取り上げます。

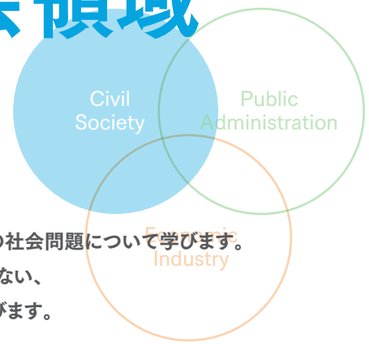
地域企業経営論

地域企業は地域を舞台に創造的な課題解決を実践し、新たな風を社会に吹き込む存在です。地域企業の可能性や課題を理論的に探究し、その活動を支援する力を付けていきます。

金融リテラシークイズの答え：3.今日以下しか物が買えない

市民社会領域の学び

Civil Society



地域で暮らす人々の多様性と、現実の社会問題について学びます。
災害が多発する日本では避けて通れない、
防災減災や復旧・復興についても学びます。

他の2領域とのかかわり

災害現場で活躍するボランティア・NPOが、多様な取り組みを踏まえて新たな社会の仕組みを提案し、それが法制度の創出につながるケースがあります（たとえば、被災者生活再建支援法など）。また、生業（なりわい）は、一般的には経済産業領域に位置づけられるテーマですが、災害という緊急時、農林漁業の復旧・復興にも非営利組織が携わる点は、まさに領域の融合、越境と言えるのではないでしょうか。

齊藤 康則 准教授
災害社会論、
災害ボランティア・NPO論

研究紹介

これまで東日本大震災の被災地をフィールドとして、仮設住宅や災害公営住宅におけるコミュニティ形成について研究してきました。しかし、災害でダメージを受けるのは生活ばかりでなく、生業（なりわい）についても同様です。最近は、被災した農地から土砂を撤去する農業ボランティアの取り組みや、農地そのものの復旧のあり方について、九州北部豪雨や西日本豪雨、令和元年東日本台風の被災地を訪れて調査しています。

災害は自然現象であると同時に、社会現象でもあります。異なる災害であれば、そして、同じ災害でも地域が異なれば、その後の復旧・復興は異なるプロセスを辿ることになります。そこで、比較という視点が重要になってきます。

代表的な講義

復興まちづくり論

災害からの復興過程で進められる「復興まちづくり」について、東日本大震災などの様々な被災地の事例をふまえて学びながら、災害前に進める「事前復興」についても考えていきます。

現代社会問題論

日本の差別問題（ハンセン病問題・部落差別・性の多様性をめぐる問題など）について、マイノリティ当事者の体験の記録などから理解を深めます。多様な他者との「共生」について考えます。

ジェンダーと政策

ジェンダー平等とはどのような課題なのか、またその達成のためにどのような取組みが必要なのかを、過去の歴史と現在行われている政策から考えます。

専門教育カリキュラム表

			1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	専門基盤科目		SDGs概論 経済学 I・II 公共経営論	政治経済学 I・II　福祉国家論　地域社会論 政策形成論　公共哲学 I・II　共同体と市民社会 政策評価論　企業倫理 I・II		
専門科目	領域専門科目	公共行政	社会保障論 財政入門 政治学入門	社会保険論	地方財政論　公的扶助論 格差社会論　公共政策分析 社会福祉原論　福祉政策と地域 労働政策論　地方自治論 環境政策論　行政学	
専門科目	領域専門科目	経済産業	地域産業論 金融入門	グローバル時代の労働問題入門 地域経済データ分析 地域企業経営論 加齢経済論 I 国際貿易論	加齢経済論 II　日本経済論 地域金融論　日本産業論 地域観光論　地域政策論 社会と開発　東北経済論 労働経済論　東北開発論	
専門科目	領域専門科目	市民社会	現代社会問題論 日常生活とジェンダー	災害社会論 多文化共生論	ジェンダーと政策　地域防災・減災論 人権政策論　復興まちづくり論 災害ボランティア・NPO論　障害学 シティズンシップ論　災害とマイノリティ	
専門科目	演習・実習・特殊科目		基礎演習	政策デザイン実習 I・II 特殊講義	演習 I 地域プロジェクト実習	演習 II 卒業研究
専門科目	専門関連科目			憲法 I・II 民法総論	行政法総論 労働法 商法 家族法	社会保障法

政策デザイン学科のゼミ紹介

演習は「ゼミ」とも呼ばれるもので、一人の教員と少人数の学生が参加して行なわれます。
教員から学生へ、学生から教員へ、学生から学生へ、知識の蓄積と意見交換をしながら、特定のテーマを深く掘り下げて学びます。
学外へフィールドワークに出かけたり、他大学との合同の研究発表会に参加したりするゼミもあります。

ゼミテーマ例

地域住民の金融リテラシー向上の施策を考える
伊鹿倉 正司ゼミ

【キーワード】
- 金融包摂
- 金融経済教育
- ナッジ

多文化共生をめぐる問題群を考察する
石川 真作ゼミ

【キーワード】
- 多文化共生
- 移民と社会
- 文化の多様性

公共政策ゼミナール
奥山 忠裕ゼミ

【キーワード】
- 公共政策
- 政策評価
- 環境政策

日本の社会保障について考える
熊沢 由美ゼミ

【キーワード】
- 少子高齢化
- 年金
- 医療

差別問題を現場から学ぶ
黒坂 愛衣ゼミ

【キーワード】
- 日本の差別問題
- フィールドワーク
- インビジブル・マイノリティ

地方財政と公共政策
佐藤 滋ゼミ

【キーワード】
- 地域社会と財政
- 自治体財政
- 国と地方の財政関係

デザインのためのマネジメント
和田 正春ゼミ

【キーワード】
- マネジメント
- マーケティング
- サービス・デザイン

コミュニケーションとジェンダー
小宮 友根ゼミ

【キーワード】
- 日常生活
- ジェンダー
- セクシュアリティ

コミュニティとボランティア
齊藤 康則ゼミ

【キーワード】
- 東日本大震災
- 被災者支援
- 創造的復興

社会開発ゼミ
佐久間 香子ゼミ

【キーワード】
- 日本の林業
- 熱帯雨林
- 人と自然のつながり

支えて備える災害文化
定池 祐季ゼミ

【キーワード】
- 災害文化
- 防災教育
- 被災者支援

「労働」をめぐる様々な問題と今後の課題
宮地 克典ゼミ

【キーワード】
- ワーク・ライフ・バランス
- 賃金と労働時間
- 若者の労働問題

社会福祉を実践から考える
武藤 敦士ゼミ

【キーワード】
- 社会福祉
- 貧困問題
- 当事者主体

地域社会における福祉国家の役割
市川 樹ゼミ

【キーワード】
- 社会保障
- 地方財政
- 社会福祉

「正しい政策」とは何か
河村 真実ゼミ

【キーワード】
- 政治哲学
- リベラリズム
- 正義論

政策デザイン学科の実習・特徴的な課外活動

政策デザイン学科では多様な実習が用意されています。地域の協力の下、地域課題の理解を深め、実際の社会の複雑さ、課題の難しさを体験すると共に、実際に課題に取り組む人々と協働していく中で、問題解決力を高めていくことを目指しています。実習・課外活動は、Vスキルズを高め、実践するための重要な機会なのです。

1 実習

多文化共生の現場をフィールドワーク

外国人住民の増加を受けて、異なった文化を持った人々の間の共生を目指す「多文化共生」への取り組みが各地で行われています。この実習では、仙台市や宮城県周辺で行われている自治体やNPOなどによる外国人支援の現場に参加し、参与観察による調査を行います。さらに、中部地方などの外国人が多く住む地域にスタディ・ツアーとして出向き、現地の外国人住民、NPO関係者と交流し、様々な取り組みを学びます。技能実習生の皆さんとパーティーや遠足、お祭りに参加したり、日本語学習のお手伝いをしたり、外国につながる子供たちの勉強を見るなど、楽しく交流しながら共生とは何かを考えます。

3 地域プロジェクト実習

地域課題解決のリアルを学ぶ

地域には様々な課題があり、その課題に取り組む存在があります。彼らの活動を理解すると共に、課題の現実を探究し、彼らと共に課題解決を自分たちの手で促進する取組を生み出すのが、この実習の狙いです。

取り上げるテーマは様々で、地域の企業や自治体、非営利組織などが関わります。学生という中立的立場の視点から、その機動力と探究力を活かし、地域社会の中での創造的調整者としての役割を積極的に果たしていきたいと考えています。政策デザイン力の集大成となる実践力を高めるための機会です。

2 実習

釜ヶ崎と飛田新地から貧困を学ぶ

日本最大の寄せ場である大阪市西成区の通称“釜ヶ崎”（あいりん地区）では、男性の野宿生活者（いわゆる“ホームレス”）が目に見えるかたちで現れています。この釜ヶ崎に隣接する飛田新地では、売春する女性の姿がこれもまた目に見えるかたちで現れています。同様の現象は東京の山谷と吉原でも見られます。このように男女の貧困問題が一部の地域に集約されて顕在化する現象は、古くより横山源之助『日本の下層社会』などでも紹介されていました。本実習ではこのような貧困問題の顕在化とその背景を学習したうえで、実際に当該地域を訪問し実態を把握するとともに、どのような支援が展開されているのか学びます。

4 特殊講義

公・共・私連携と地域

地域社会においては、家計・企業・政府、NPOやNGOといった多様な主体が様々な課題に向き合い、より良い社会・地域づくりを目指しています。私たち一人ひとりが「より良い地域、より良い社会をつくる」主体となるためには、そうした具体的な取組を知ることも有効です。特殊講義では、政策デザイン学科の専門分野である公共行政、経済産業、市民社会のそれぞれの領域に関連する活動に携わっておられる方々を外部講師として招き、地域の課題や実際の活動内容等についてご講演をいただきます。そのうえで受講生は、講演内容についてより深く調べ、課題解決について考える等のグループワークとプレゼンテーションを行います。

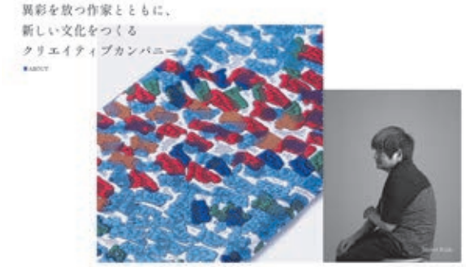
政策デザイン学科から、「異彩を、放て」

政策デザイン学科の理念は「チェンジメーカー」を目指すこと。異彩を放つアーティストの作品を正当な評価のもとに世に出すことで、今まさに市民社会、公共行政、経済産業の三領域を自由な発想で横断しながら社会を変えている、株式会社ヘラルボニーの代表取締役Co-CEO、松田文登さんに学生がお話を聞きました。

HERALBONY

松田 文登 さん

株式会社ヘラルボニー代表取締役Co-CEO。政策デザイン学科の前身にあたる共生社会経済学科卒業。双子の松田崇弥さんと共にヘラルボニーを設立。「異彩を、放て」をキャッチフレーズに、アーティストの作品を市場に出し、福祉を起点に新たな文化の創造に挑む。岩手在住。Forbes　JAPANが選出する30組の文化起業家「CULTURE-PRENEURS 30」受賞。



https://www.heralbony.jp

熊沢 由美 先生

政策デザイン学科教授。専門は社会保障論（本ガイド3ページを参照）。共生社会経済学科教員時代に松田文登さんを教えている。

経済と福祉をつなぐ

清藤さん：障害を「異彩」と捉えることで、障害へのネガティヴなイメージを根本的に変え、異彩を放つアーティストの作品を正当にビジネスに乗せていくあり方が素晴らしいと思いました。

松田文登さん：ありがとうございます。

清藤さん：そのうえで、ヘラルボニーが障害のある方の特性を生かしてビジネスモデルを実践することが、社会や業界から批判されることもあったんじゃないかなって思って。もしあった場合に、その批判に対してどう対応されたかについてお伺いしたいです。

松田文登さん：やっぱり経済と福祉っていうのって、けっこう水と油に分離されがちで。ただ、批判っていうのは、「批判されてやっと一人前」じゃないですけど、わたしたちの事業は社会に問いを与えている行為そのものなので、そこに対して批判もない、無風がいちばん寒いというか。いま、株式会社として挑戦していくなかで、あらたな仕組みをつくろうとしています。「異彩」そのものが、いろんなものが存在していると思っていて。「いろんな異彩が存在している」っていうものを模索していけるような、そういうあらたな場所をつくろうと思っています。それがあることによって当事者が置いてきぼりにならない仕組み。そこを強く作っていくことは、いま、会社が成長していくなかで、かなり重要度が高いと思ってます。

「幸せにしたい人」の場所から始める

松田拓也さん：わたしは今SIAC（Social Innovation Accelerator College）に参加して起業を志しているのですが、経済的価値を生み出すことってすごく難しいなって感じています。それでいちばん伺いたいのが、「なぜその地（岩手）で一歩目を始めたのか」ということです。

松田文登さん：それはかなりシンプルで。誰を幸せにしたいのかと考えていったときに、「やっぱり障害のある自分の兄を幸せにしたい」、その割合を増やす場所をどこにしたいかって考えていくと、岩手で自分の兄が豊かに暮らしていく社会を実現したいっていうのがいちばん優先順位が高いんです。

　ヘラルボニーって、全国の認知度調査をやったときに、全国的には認知度あんまり高くない。だけど、岩手県内の人は、けっこう知ってくれている。岩手のメディアにたくさん出てるので。なので、局地的に変えられるっていうものが存在してると思うんです。なにを目的地にするのかによってどこから始めるのかは変わりますが、わたしたちにおいては、兄の幸せをそこで創って、その認知を創っていくっていうのがすごく重要度が高かった。

頑張りを続けるための「何か」を持つ

後藤さん：自分にしたいことがあったときに、なぜ「起業する」という考えに至ったのでしょうか。

松田文登さん：もともと障害のある方の就労支援施設、福祉施設を立ち上げたいって、高校の頃から思っていて。それはやっぱり、兄との関係で、自分たちの手で、幸せをつくっていきたいって思っていたからだと思いますね。それがどういう経緯だったのかはちょっと覚えてないんですけど、ただ、そういう原点があるからやるっていうことだと思う。

　そもそも、こういうビジネスモデルも、わたし父親が銀行員なので、もう反対も反対だった。最初スタートするときに、「どうやっておカネ借りるんだ？」っていうところからスタートして、いや、なんとかなるだろうと思ったら、ほんとに最初、借りられなくて大変だった。そこで、自宅の一室からスタートしたんです。でも、そのぐらい「やりたい」っていう思いがあるものじゃないと続かないですよ。ノリでどんどんチャレンジしていくのは大賛成なんですけど、本当にそれを仕事にしていって、成長させていくって考えたら、やっぱり、何かがないと続かない。

全力でチャレンジする大学生活を

大友さん：わたし自身、将来、なにかしらで地域の課題を解決するビジネスをつくっていきたいなって思ってるんです。松田さんは、高校時代から福祉施設をつくりたいって考えてらっしゃった。大学で、資格とかスキルとか、どのようなものを身につけたのかなっていうのと、「一緒に働きたい」と思える人の特徴をお聞きしたいです。

松田文登さん：大学時代は、ちょっと大学とはまた別の部分で、イベントとかにすごく傾倒してました。いろんなことにチャレンジしてたなあ。ひとりで東南アジアに行ったりとか。世界一周旅行した人と泉区の「すき家」で出会って、その人に感化されて、その人を1週間、家に泊めるみたいな謎の機会もあって。どこでなにが繋がるかはわからないと思うので、大学のことでチャレンジしたいことがあるんだったらやればいいし、大学外のところで自分がやりたいって思うことがあるんだったら、それに全力でベットしていけばいいと思うし。結果として、自分のやりたいことに繋がってるって思えてるかどうかなんじゃないかなって思います。

熊沢先生：大学のいいところを挙げてほしいです（笑）。

松田文登さん：いやいや、大学にはたくさんいいところありましたよ（笑）。最初のスタートが、わたしの双子の崇弥の大学時代の親友2人と、わたしの大学時代の親友2人で起業してるんです。そこからどんどん会社が成長して、いろんなチャレンジできるようになったので、そういう出会いはすごくよかったなと思います。そういう出会いを求めるには最高の大学ですよね。こうまとめちゃうとあれなんですけど（笑）。いや、ほんとに。そういう自由のある、最高の大学。

卒業生×学生

ヘラルボニー松田文登さんを囲んで

座談会の詳細はウェブサイトに掲載されています！

後藤 麻緒 さん
宮城県泉館山高等学校出身

三瓶 莉穂 さん
宮城県仙台三桜高等学校出身

佐藤 理枝 さん
山形学院高等学校出身

清藤 理乃 さん
聖ウルスラ学院英智高等学校出身

大友 唯 さん
宮城学院高等学校出身

松田 拓也 さん
山形学院高等学校出身

大藏 のどか さん
仙台白百合学園高等学校出身

FAQ Frequently Asked Questions

Q1
公務員受験に有利ですか？

政策デザイン学科は必ずしも公務員養成だけを目的とした学科ではありませんが、カリキュラムは公務員試験（行政職）の一次試験（専門科目）や二次試験（小論文・面接）に対応しています。また、学科の学びは公務員の仕事内容に直結しています。

Q2
地域コミュニティ学科との違いは何ですか？

地域課題の「探究」に力点をおくのが地域コミュニティ学科だとすると、地域課題の「解決」に力点をおくのが政策デザイン学科だといえます。

Q3
法学部や経済学部、経営学部との違いは何ですか？

政策デザイン学科は、公・共・私の連携により、地域課題の解決を模索します。そのため、多様な学びを組み合わせているところ、地域での現場の学びが充実しているところに他学部との違いがあります。

Q4
「デザイン」とは何のことですか？

デザインといっても美術やCGを学ぶわけではありません。政策デザイン学科のデザインは「ソーシャル・デザイン」といわれる新しい領域でよりよい社会を実現するために、社会を分析し、設計し、変化させていくこと全体を学びます。

Q5
地域が抱える課題には何がありますか？

地域が抱える課題は多種多様です。SDGsと結びつけて、その一部を表したのが以下の表です。

主な地域課題（地域SDGs）一覧

SDGsの各目標	SDGsと対応する主な地域課題
貧困をなくそう	子どもの貧困、女性の貧困、生活保護、ワークキングプア
飢餓をゼロに	農業の担い手不足、食糧自給率、スマート農業
すべての人に健康と福祉を	超高齢社会、健康寿命、社会保障費、介護人材不足、認知症、生活習慣病、医師の偏在、孤独死
質の高い教育をみんなに	教育格差、不登校・いじめ、発達障害、生涯教育、金融教育
ジェンダー平等を実現しよう	女性リーダー、仕事と育児の両立、待機児童、未婚化、男性の家事・育児参加
安全な水とトイレを世界中に	水不足、水産資源の枯渇
エネルギーをみんなにそしてクリーンに	再生可能エネルギー
働きがいも経済成長も	ワークライフバランス、非正規雇用、起業、インバウンド、後継者不足、金融包摂
産業と技術革新の基盤をつくろう	伝統技術の継承、デジタルデバイド、人工知能（AI）、ロボット
人や国の不平等をなくそう	人口減少、地域経済格差、人権侵害、LGBT、障がい者、外国人労働者
住み続けられるまちづくりを	人口減少、インフラ老朽化、買い物弱者、空き家、災害復興、減災・防災
つくる責任つかう責任	フードロス、プラスチックごみ
気候変動に具体的な対策を	温室効果ガス、ヒートアイランド、ゲリラ豪雨、洪水
海の豊かさを守ろう	海洋汚染、水産資源の乱獲、水産業の担い手不足
陸の豊かさを守ろう	生物多様性、森林保護、林業の担い手不足
平和と公正をすべての人に	ドメスティック・バイオレンス（DV）、児童虐待、特殊詐欺、若者の政治参加
パートナーシップで目標を達成しよう	財政赤字、コミュニティの弱体化

出所：筧裕介（2019）『持続可能な地域のつくり方』英治出版を参考に作成

その他のFAQはこちらをご覧ください

興味を持たれた方は
オープンキャンパスや説明会に
お越し下さい！

東北学院大学

https://www.tohoku-gakuin.ac.jp

最新の情報は
HPでご覧下さい

政策デザイン学科HP